

東京2025デフリンピック 稲城市出身選手を応援しよう！

障害福祉課障害福祉係



松永 彩珠 選手

(デフバレーボール選手・稲城市ホームタウンアスリート)

先天性の難聴があり、中学1年生からバレーボールを始める。日本代表メンバーとして2024年に沖縄で開催されたデフバレーボール世界選手権大会に出場し、サービスエースをとる等活躍を見せ世界一に貢献。東京2025デフリンピック日本代表選手に選出され、チームの司令塔として金メダルを目指す。

松永選手が出場する デフバレーボールを応援しよう！

■11月16日(日)～25日(火) ※21日(金)を除く

場 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

デフバレーボールの見どころ

アイコンタクトとサインによる連携プレー

声による指示や合図が難しいため、選手たちはアイコンタクト・手話・ジェスチャー等を駆使して瞬時に意思疎通を図ります。

聴覚に頼らない集中力と身体能力

選手たちは視覚や他の感覚を最大限に使い、高い集中力でボールや相手の動きを読んでいます。また、審判は笛の音だけでなく、ハンドサインで判定する等、視覚で伝えることができるよう工夫しています。



あなたも一緒に！ 手話で選手を応援しよう！

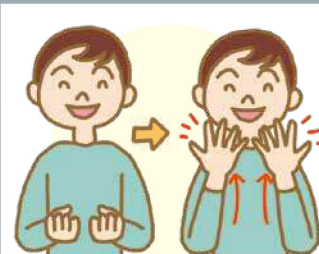
手話で応援する方法を覚え、選手たちにエールを届けましょう。

がんばれ



両手で拳を作り2回下ろします。

おめでとう



両手を軽く握りお腹の前くらいの高さから手をパッと開きながら上向きに上げます。

拍手



両手を上にあげ、手をひらひらとさせます。

応援



両手の拳を上下に置き、旗を振るように左右に動かした後、左手の立てた親指を右手で前に押し出すように2回たたきます。

この他の手話は「TOKYO FORWARD 2025」(右記参照)をご覧ください。



選手のコミュニケーションに注目！

まず見てもらいたいのは、聴覚に障害があっても、手話やアイコンタクト等、様々な方法を使いながら、選手たちがコミュニケーションをとって競技に臨んでいる姿です。そこから生まれるプレーやパフォーマンスには迫力があり、きっと感動していただけたと思います。また、「聴覚障害者とのコミュニケーションには壁がある」という思い込みをなくし、ちょっとした工夫や気持ちがあれば誰とでも自然につながれることを、この大会を通じて感じていただければうれしいです。

デフリンピックをきっかけに、多くの方が聴覚障害に関心を持ってくださることを大変ありがたく思っています。しかし、本当に大切なことは大会が終わった後です。障害の有無に関わらず共に生きる社会をつくるためには、多くの方の共感と理解、そして一人ひとりの意識が欠かせません。今回の大会を機に関心を持ってくださった方には、ぜひ日常の中でも気軽に声をかけていただければうれしく思います。



▲荒川 健一氏
(稲城市聴覚障害者協会会長)

デフリンピックに向けた稲城市の取り組み

デフアスリート対談企画

稲城市在住のデフアスリートである松永選手と岸野選手(デフラグビー日本代表主将)による対談を行い、障害への理解や競技への熱い想いを伺いました。



周知イベント

松永選手、岸野選手を招き、手話講座、クイズ大会、競技体験、手話ダンスを行い、デフリンピックや聴覚障害者との関わり方等を学ぶ機会となりました。



松永選手壮行会・動画制作

東京2025デフリンピックに出場する、松永選手の壮行会を開催し、エールを送りました。また、大会の周知動画を制作し、松永選手に出演いただきました。

